

修学旅行詠

福島県立白河旭高等学校

平成十五年十月十五(水)～十九(日)

西行

うちつけに又こむ秋のこよひまで

月ゆゑ惜しくなる命かな

ゆくへなく月に心のすみ　て

果はいかにかならむとすらむ

月をこそながめば心うかれ出でめ

やみなる空にただよふやなぞ

学年主任・國分　洋

副主任①岩崎志保子(岩)

②湯澤敏洋、③小野里高広、

④香西太二郎、⑤西間木文大、

⑥佐藤和子、⑦吉田洋子(洋)

⑧白岩晶子、

副担任・戸井田哲治、正木克也(正岡子木)

久保田範夫(久)・団長

【旅立ちの日々十月十五（水）】

旅立つ朝に詠める

○ 朝まだき新白河の驛舎には旭の子らの瞳輝く（久）

○ 古への秋の都に思ひ馳せ地図を広げてあさひを待てり（久）

○ 草枕旅のはじめの小糠雨 箱根越ゆれば晴れわたりけり（久）

金閣寺にて

□ 金閣の古都の夕陽に照り映えて（久）

□ 洛西^{らくさい}の夕陽^ひに輝ける鹿苑寺（久）

【大和を訪ねてゝ十月十六（木）】

奈良へ向かう車中、東寺を見上げた空に残れる月を見て詠める

□ 京の秋残んの月のほの白く（久）

薬師寺にて詠める

○ 「君たちに未来はある」とカリスマの法話響けり秋の薬師寺（久）

○ 面白き説法に笑う生徒らの澄める瞳に光こそあれ（洋）

○ 永らえて檜ひのきの生命語り継がん合掌の心 薬師寺の秋（久）

□ 空高し笑顔のゆれる大和みち（岩）

法隆寺にて

もと ましま

○ 秋空の下に鎮座す三尊の微笑に宿れる空なる教へ(洋)

えみ

くう

□ 柿食へど腹が鳴るなり法隆寺(正岡子木)

グ

奈良公園にて

○ 青丹よし奈良の都の秋空にさ牡鹿の聲細く消えゆく(久)

をし

○ 様々のあはれを込めて吹き渡る風涼やかに若草の丘(久)

○ 岩崎丁懷石料理に講義せり(洋)

それにつけても量の多さよ(岩)

【京都・班別自主研修く十月十七（金）】

北野天満宮にて詠める

○ 北野なる天神様を尋ね来て旭の子らは何祈るらん（久）

□ 教え子の祈り叶えよ菅公の絵馬（久）

洛北漫遊

○ 往にし方^{いへ}の大原御幸を偲びつつ身を歩まする秋の洛北（久）

○ 鞍馬山牛若丸の修行せし懸崖登る青息吐息（久・小・西）

外出しない生徒らとシヨ^{えん}ー^{わざ}を見て詠める

○ 舞子はん古く艶なる伎芸冴えて更けゆく京の秋の静けさ（久）

〈生徒作品〉

□ 竜安寺疲れた心安らぎて(K男)

(初案 忙しい心安らぐ竜安寺)

□ 竜安寺忙しき心安らぎて(久)
せわ

一条戻り橋にて

○ 戻り橋良き旅の末願はんと思ひをこめてわたりこそすれ(H女)

○ 眠くても起きねばならぬ朝六時夜の余韻がまぶたに重し(H女)

○ 手をつなぎ笑顔で歩く京の街 星空の下 足取り軽く(H女)

【大阪・クラス別く十月十八(土)】

○ 秋の陽を湛^ひえて今日も流れゆく宇治の川面に鳳凰の幻影^{かげ}(久)

□ タコ焼きを食事の後に「食いだおれ」(久)

□ 食事してタコ焼き食つて「食いだおれ」(久)

○ ハイテクの限りを尽くし紡ぎだす夢の世界やUSJ^{ユーエスジエイ}(久)

○ 身を尽くし「また来む秋にあはむ」とは難波^{浪速}の夢かUSJ^{ユーエスジエイ}(久)

USJ = Universal Studio Japan

白河への荷作りをしながら

○ お土産と良き思ひ出を積み込みて都人への感謝残せり(洋)

○ 逢坂の川面に映る今昔 いまむかし 何を思ふか旭の子らよ(正岡子木)

○ Thy Blue sky here 今朝の碧い空

Move our heart,adore 心を深くゆり動かしてくれる
Warm air there あのとときの穏やかな風も

(正岡子木、訳も)



☆ 東雲の碧く優しきこの風に今蘇るあの日あるとき(久)
しののめ あお

【旅の終りゝ十月十九（日）】

□ バスガイドに「ほっこり」の語義（||ほかほか、ゆったり）を聞き
秋の陽の三年坂にほっこりと（久）

□ 清水きよみずの舞台に踊る秋の夢（久）

○ 学問と恋とはたまた健康と音羽の滝に祈る生徒ら（久）

○ 車窓より富士の高嶺を眺むべく目をみは睜れども夢の中（久）

○ 白河の駅に降り立ち息吸えばいと懐かしく故郷ふるさと匂ふ（久）

○ ゆく秋の旅の終りの驛舎には充実感と冷氣漂ふ（久）